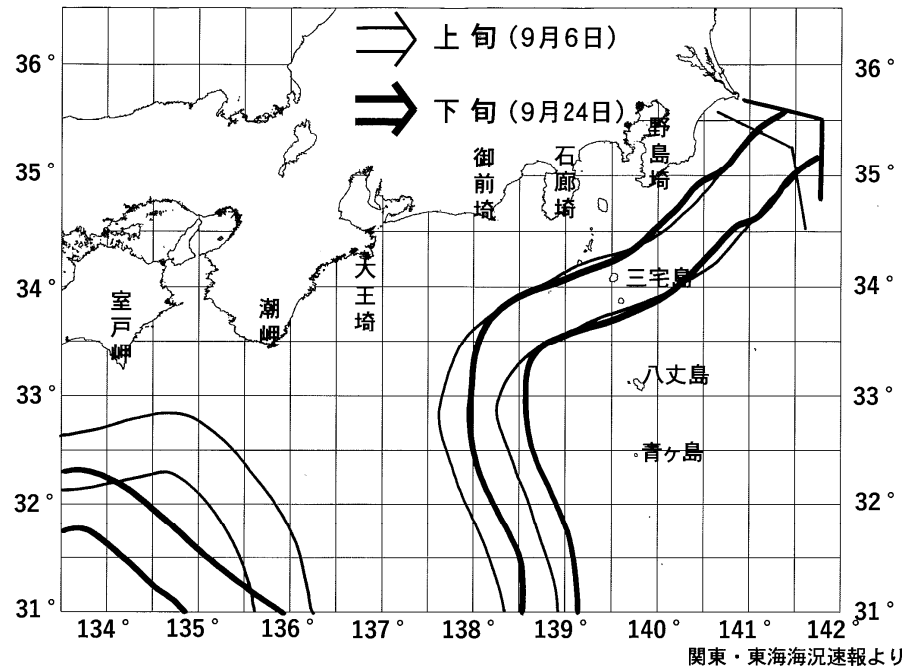


漁海況月報

令和3年9月1日

No.9 ~9月30日

静岡県水産・海洋技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



関東・東海海況速報より

9月定地水温の旬平均値() (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	24.9	26.1	25.2	27.0	25.3	25.8
	0.1	1.6	0.6	1.0	-0.3	0.4
中旬	24.4	25.5	24.7	26.2	25.6	25.6
	0.2	1.5	0.5	1.0	0.7	1.2
下旬	23.6	25.1	24.1	25.4	25.1	25.0
	0.5	1.6	0.6	1.2	1.5	1.6
月	24.3	25.5	24.6	26.2	25.3	25.5
	0.3	1.6	0.6	1.1	0.6	1.1

*地頭方の水温観測は終了しました。

[黒潮流路]

潮岬を大きく離岸した後に遠州灘沖付近から遠州灘 - 石廊崎沖までS字状に北上する流路となった。上、中旬は潮岬 - 遠州灘を大きく離岸し、遠州灘沖 30.5°N 付近から石廊崎沖までS字状に北上する流路となり、中旬は上旬より西側を北上した。また、熊野灘、遠州灘、駿河湾、大島東・西水道に向けて暖水波及が見られた。

下旬は潮岬 - 遠州灘を大きく離岸し、遠州灘沖 29.5°N 付近から石廊崎沖までS字状に北上する流路となり、中旬より緩やかなS字であった。また、熊野灘、遠州灘、駿河湾、大島西水道に向けて暖水波及が見られた。

[県下沿岸域]

上旬は伊東、沼津、焼津で「平年並」、下田、雲見で「やや高め」、稲取で「高め」であった。中旬は伊東で「平年並」、下田、雲見、沼津、焼津で「やや高め」、稲取で「高め」であった。下旬は伊東、下田、雲見で「やや高め」、稲取、沼津、焼津で「高め」であった。

[竿釣カツオ]

9月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げは149.9トンで前年同月(80.1トン)の1.9倍であった。魚価は176円/kgで前年同月(493円/kg)を下回った。

漁場は34-35°N、138-139°Eの駿河湾沖などに形成され、御前崎港で測定した魚体サイズは、中(尾叉長56cm)を主体に、大(尾叉長58cm)などであった。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(ト)	水揚隻数	平均水揚量/隻(ト)	平均単価(円/kg)
R3年9月上旬	42.3	16	2.6	169
中旬	73.6	14	5.3	150
下旬	34.0	11	3.1	240
R3年9月計	149.9	41	3.7	176
R2年9月計	80.1	39	2.1	493
R1年9月計	160.2	39	4.1	233

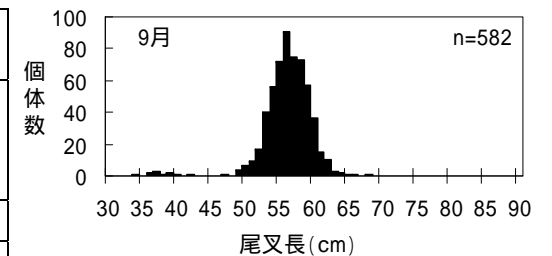


図 御前崎港で測定したカツオの尾叉長組成

[定置網]

伊豆半島東岸大型定置網6か統(伊豆山、古網、川奈、赤沢、北川、谷津 富戸は休業中)の水揚げ量は226.2トンで前年の同漁場の水揚げ量(445.8トン)の51%であった。また、1か統あたりの水揚げ量は、37.7トンで前年(74.3トン)の51%、平年(57.0トン)の66%であった。水揚げ量の多い漁場は、古網漁場(79.9トン、さば類、マアジ、アカカマス)、次いで伊豆山漁場(51.9トン、さば類、マアジ、マルソウダ)であった。

多獲された魚種の水揚げ量は次頁(表)のとおりで、さば類は138.7トンで、前年比65%、平年比1.2倍であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは100.7トン、前年比67.6倍、平年比32.3倍で、9月の水揚げ量としては1997年以降、最も多かった。ゴマサバは38.0トンで、前年比18%、平年比33%であった。ヤマトカマスは19.5トンで、前年比60%、平年比69%であった。マアジは17.3トンで、前年比15.8倍、平年比76%であった。マルソウダは17.0トンで、前年比1.4倍、平年比37%であった。クサヤモロは7.3トンで、前年比35%、平年比3.9倍であった。

多獲された魚種の主な漁場は、次頁(表)のとおりで、各漁場の水揚げ量の割合は、さば類では古網漁場が48%(66.6トン)、伊豆山漁場が27%(37.0トン)、ヤマトカマスでは北川漁場が44%(8.5

トン) 赤沢漁場が33%(6.4トン) マアジでは伊豆山漁場が52%(9.0トン) 古網漁場が18%(3.0トン) 谷津漁場が16%(2.8トン) マルソウダでは北川漁場が55%(9.4トン) 谷津漁場が21%(3.6トン) クサヤモロでは赤沢漁場が76%(5.5トン)を占めた。

* 平年：昭和57年～令和2年の平均値

(表) 多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
さば類	138.7	0.65	1.19	古網、伊豆山
ヤマトカマス	19.5	0.60	0.69	北川、赤沢
マアジ	17.3	15.8	0.76	伊豆山、古網、谷津
マルソウダ	17.0	1.39	0.37	北川、谷津
クサヤモロ	7.3	0.35	3.91	赤沢

[サバ 棒 受 網]

小川港所属の棒受網漁船は月を通じて棒受網主体で操業し、漁場は月を通じて大室出しに形成された。水揚量はゴマサバ36トン(前年同月比21%)であり、1隻あたり水揚量は4.0トン(前年同月比33%)であった。マサバの水揚は無かった(前年同月水揚無し)。

1kgあたり平均単価は155円で前月(121円) 前年同月(100円)を共に大きく上回った。

水揚げされたゴマサバの体長は30cmにモードを持つ単峰型を示した。

小川港 さば類(棒受網)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
R3年9月上旬	-	14	3	4	-	3.4	-	174	大室出し
中旬	-	21	2	4	-	5.4	-	143	大室出し
下旬	-	0	1	1	-	0.5	-	124	大室出し
R3年9月計	-	36	6	9	-	4.0	-	155	大室出し
R2年9月計	-	170	7	14	-	12.1	-	100	三宅、三本
R1年9月計	-	0	3	4	-	0.0	-	540	

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

[シラス 船 曳 網]

県内主要6港における1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が421kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が250kgであった。平均水揚量は324kgと前年同月(290kg)の1.1倍、平年同月(過去5か年平均:244kg)の1.3倍であった。また、総水揚量は763.9トンで前年同月(336.1トン)の2.3倍、平年同期(325.5トン)の2.3倍と、前年、平年を上回った。平均単価は758円/kgと、前年同月(537円/kg)の1.4倍、平年同月(967円/kg)の78.4%と、前年を上回り、平年を下回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(ト)	延日数	延統数	平均水揚量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	28.7	15	164	175	860
舞 阪	133.3	16	613	217	881
福 田	93.8	16	407	231	679
御前崎	77.0	14	148	521	649
吉 田	247.7	21	541	458	727
静 岡	183.4	20	484	379	772
R3年9月計	763.9	102	2,357	324	758
R2年9月計	336.1	52	1,157	290	537
R1年9月計	480.2	77	1,519	316	654

*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

*平年：過去5か年(平成28～令和2年)平均値

[まき 網 (い わ し 類)]

マイワシ、カタクチイワシは、伊東港、静浦港、沼津港、小川港いずれも水揚げがなかった。伊豆半島東岸の大型定置網7か統においても水揚げがなかった。

[調 査 船 駿 河 丸 の 動 向]

9月 1日 ~ 9月 2日	さば類標識放流調査	(2日間)
9月 6日 ~ 9月 7日	地先定線観測調査	(2日間)
9月 13日 ~ 9月 14日	金目鯛食害調査(伊豆)	(2日間)
9月 16日 ~ 9月 16日	公共用水域水質測定調査	(1日間)
9月 21日 ~ 9月 22日	MaOI&サクラエビ卵・幼生調査	(2日間)

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

